

ひめゆり 通信

第162号

2021年3月1日号

<https://hozanji-wel.org/>

社会福祉法人 宝山寺福祉事業団 〒630-0257 奈良県生駒市元町2-14-8 桃李館内 TEL:0743-74-1172 / FAX:0743-74-1911

主な目次

- 巻頭言 1
- 高齢者施設より 3
- 児童施設より 7
- 法人研究発表会 12
- ステップアップ研修・法人調理実習研究について 13
- 叙勲 14
- 全国表彰 15
- 法人永年勤続 16

「コロナ騒動見聞記」

宝山寺福祉事業団理事長 辻村 泰範

新型コロナウイルスに対するワクチンの接種が始まろうとしている。

トンネルの先にほのかな明かりが見えてきたと期待する人が多いようだ。国内で最初の感染者が見つかったのが奈良県であった。あれから一年。

昨年四月の緊急事態宣言以来、今また東京、大阪をはじめとする大都市部を中心に二度目の緊急事態宣言が発せられている。

赤ちゃんから百歳を超えるお年寄りまで、しかも施設に入所している方ばかりでなく、保育園やデイサービスセンターなどのように通って利用される方たち、スタッフが訪問して介護や相談支援を提供する訪問系のサービスを利用している方たちなど実に多くの方々に私たちは接している。当然

そこに関わる職員も多い。七〇〇名を超える職員が様々な交通手段を利用して勤務している。

我が事業団の現況を考えると、いつどの施設で感染者が出てもおかしくない。

職員、利用者からは感染者を出すことなく十二月を迎え、ギリギリセーフで過ごしていますと、法人役員会で報告したものの、ヒタヒタと波が押し寄せてくる様に、県内の他の施設での感染事例が耳に入っていた。

職員の家族が勤務している会社で陽性者が出たがどうすればいいか、同居の家族が濃厚接触者に指定されたが勤務は継続して問題ないか、通っている児童の家族が陽性になったなど、まるで外堀が埋められていく様な報告が届く様になっていった。

コロナ感染症対策として示されているガイドラインではPCR検査の対象となる濃厚接触者については保健所から、陽性患者の行動履歴等から特定されて本人や施設に連絡が入る。濃厚接触者は当然検査を受けなければならないし、検査の結果陰性であっても十四日間の自宅での経過観察が必要になる。しかし、濃厚接触者の濃厚接触者は濃厚接触者にはならないので微妙な緊張感が残ってしまう。

(次頁につづく)



それまでも発熱などの体調不良を訴える職員が出ると、すぐPCR検査を受け、結果が陰性であったと安堵するようないことがいくつかの施設でもあった。そしてついに高齢者の施設から検査で陽性のお年寄りが出たとの報告を受けた。濃厚接触者と目された職員、入居者、家族は全員検査の結果陰性で感染経路は全く不明であった。

一名の感染者のみで年を越せるかと思っていたら、仕事納めの日になって奈良市内の通園施設で体調不良を訴えた職員が検査を受けたところ陽性と判明入院。最終的には職員四名が陽性であったが、園児は全員が陰性の判定であった。ここでは園児や保護者に異常がなかったこと、年末年始の休暇を挟んでいたのが幸運であった。

松の内が開けようとするころ、今度は生駒市内のヘルパー派遣事業所の責任者から電話が

飛び込んできてヘルパーの感染が判明。ヘルパーの支援を受けているご利用者は、複数の事業所からのヘルパーを利用していたり、デイサービスなど他の介護サービスを利用されている方も多いため、ヘルパーが直接関わっている利用者や法人内のヘルパーだけでなく他の法人事業所への連絡が必須になる。最終的に濃厚接触者とみなされた利用者としてヘルパーは全員が陰性の判定を受け安堵した。とりわけご利用者に感染者が出なかったことが何よりであった。

この目に見えない小賢しいまでの新型コロナウイルスの攻撃から身を守る手立ては、今のところ目を覆うゴーグル、口鼻を覆うマスク、全身を包む防護衣と手袋しかないのが実際だ。

感染予防に期待がかかるコロナワクチンが本場に大きな効果を見せるにはまだまだ時間がかかりそうである。コロナウ

イルスや感染症に直接攻撃を加える治療薬や治療法となると、その道筋もおぼろげだ。丸裸とは言わないまでも、盾だけを構え鎧を着ているだけで武器を手にしていないのが我々の姿である。場所と人によっては逃げ惑い、巣籠もりする他ないと言う場合もある。

しかし、こうしたコロナ禍の中で我々が学び、手にしたことも多いのかもしれない。

我々自身が行動を自粛し、自制するといわゆる行動変容の自覚に目覚めた人もいるだろう。マスクや手指消毒の習慣化や適切な使用法は衛生面で大きな効果を発揮し、インフルエンザの劇的な減少など一般感染症の予防にも大きく貢献している。三密回避のためのオンライン会議などICTの活用はめざましく広がった。

感染拡大防止のために、人と人との接触や交流を抑制し、結果

的に孤立感や格差を広めることになっていくかもしれないが、実は改めて人と人とのつながりや支え合うことの大事さを意識することになったとすれば、怪我の功名と言えなくもない。

福祉の仕事に携わる者は、手をつなぎあって前に向かって進むしかない。それがフロントランナーの覚悟だ。

デイセンター寿楽

非日常を大切に

主任生活相談員 中島 淳

「ハレのケ」ってご存じですか。日本人の伝統的な世界観のひとつとされている言葉です。私自身、新型コロナ禍によって様々な行事が自粛されて行く中で知りました。「晴れ舞台」や「晴れ着」などに使用される“ハレ”という言葉は、華やか時に使う「非日常」を表し、“ケ”は「日常」を表す対義語になるようで、普段着を褻着（けぎ）と呼んでいた時代もあったそうです。毎日が華やかで特別な“ハレ”だと、気が張って疲れてしまいますが、“ケ”ばかりでも退屈。「ハレのケ」のバランスが大切という話です。今の私たちの生活は異常な状態で、健康と経済を脅かす未知のウイルスに恐怖し、一年中マスクをしながら、あらゆるイベントは自粛ばかりです。これまで先人が大切にしてきた伝統行事や、季節を祝うイベントなど、多くの“ハレ”の日が壊れてしまいました。デイセンター寿楽でもこれまでの恒例行事は中止や規模縮小をせざるを得ませんでした。改めて非日常の大切さに気付かされた一年

高齢者施設より

にもなりました。今年は感染予防対策に万全を期し、この“ハレ”の日を取り戻したいと考えています。おやつ作りやイベント風呂、季節行事等をこれまで以上に増やしていき、日常の中にある特別な時間を大切にしていきたいと思えます。



往馬大社へ初詣に行きました

デイセンター憩の家

認知症になっても変わらない心

主任生活相談員 友國 和之

たとえ認知症になって上手く表現できなかつたり、言葉に出せなくなってしまうとしても、その人の行動から歴史をたどって、さらにその人にとって出来ることや、能力を発揮できることがあるのではないかと考えています。はじめは、コミュニケーションをとることを怖がっていたとしても、その人の思い出のある場所や生まれ育った場所に私たちが興味を持ち、調べて話題にすることで、心を開いてくださることもあります。心を開いてくださるようになるまでは「これでコミュニケーション大丈夫」と安易に思わず、ゆっくりとその人に耳を傾ける必要があります。また、心を開いてくださることが出来れば、今まで以上にご本人も言葉に出すことが出来たり、行動ができるのではないかと感じます。

いつもあるケースではありませんが、デイセンターからのお迎えに至るまでに時間のかかった認知症症状のあるご利用者が、今では新しい認知症のご利用者の相談事を聴く状況をうかがうことが出来、また説得力も驚くほどのものです。その方は、のちの情報で、編み物の先生をされていたことがあり、それぞれの人に合わせた「思いやりを持って伝える」ということを大切にされていたのだと感じています。

私自身ご利用者を見て教えていただくことが多く、一緒に過ごさせていただいていることを誇りに感じています。





延 寿

家族会個別面談

特養グループリーダー 宇田 昌弘

例年、家族様同士の交流の機会として、また、施設運営についてのご報告の場として家族会を開催していました。しかし今年は、いつものように集まって開催するということができない状況でした。それでも、感染対策を取りながらできることはないかと模索した結果、個別面談会という形をとらせて頂きました。総勢45組の家族様が参加して下さった為、複数日にわたっての面談会となり、利用者様と家族様とのご面会の後、介護スタッフと家族様とで

面談を1組ごとに行いました。従来の家族会とは違い、個別での面談でしたので、細やかな報告をする事ができ、家族様からは「不安な事、気になる事も気軽に聞けました。」とのお声も頂戴しました。形式を変更したことでのメリット・デメリットはそれぞれありましたが、また来年も工夫を凝らして、より良い家族会にしていきたいと思えます。

寒い中、またこのようなご時世の中、たくさんの家族様にご足労、ご協力頂きましたことを、職員一同お礼申し上げます。



個別面談の様子



梅寿荘居宅介護支援センター

オンライン研修の受講

介護支援専門員 和田 恵美子

昨年は5年に一度の介護支援専門員の更新研修があり、このコロナ禍のためオンラインで行われることになりました。条件としてマイクやイヤホンなど環境を整えること、パソコンでズームのアプリのインストール、IDパスワード入力が必要など戸惑

うことばかりでした。今までのように会場に足を運ぶことはないですが、研修当日までにユーチューブで講義の視聴を終えて参加する事となっていました。当日パソコン画面に自分の顔が出たときはホットとしたもののグループワークでは他の人との間合いや、空気が読めず、いつ発言したらいいのか、ドキドキの連続でした。今回約3か月7回の研修を通して更なる課題の把握、適切なアセスメントが大切との事を学びました。

団塊の世代が後期高齢者になる2025年は目前ですが、介護保険の制度の存続のためにも本来の目的である自立支援のケアプランの作成ができるよう日々精進していきたいと思えます。



梅寿荘地域包括支援センター

認知症予防の啓発活動について

認知症地域支援推進員 笹本 奏

生駒市の介護予防事業には、運動教室のほかに認知症予防の取り組みとして脳の若返り教室や物忘れ相談などがあり、「認知症サポーター養成講座」も認知症予防啓発の一つです。

「認知症サポーター養成講座」とは認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らしていただけるために、認知症のことを理解して下さる人を一人でも増やそうという取り組みです。今年度はコロナの影響もあり、養成講座の開催時期や方法を慎重に検討し話し合い、薬局や小学校、脳の若返り教室のボラ

ンティアの方に養成講座を開催することができました。講座後はたくさんの方に認知症が病気であることを理解していただき、養成講座をきっかけに相談に来てくださった方もおられ、取り組みの重要性を実感することができました。来年度も自治会や金融機関、商業施設など地域に出向き、認知症予防の啓発活動を行う中で認知症高齢者と家族を支える支援体制を充実させ、認知症の人にやさしいまちづくり、認知症の人と共に生きていける地域づくりを目指していきたいと思えます。



薬局での認知症サポーター養成講座の様子

梅 寿 荘

エアコンのありがたさが身に染みた2か月

事務長 東口 謙

梅寿荘の空調設備は、厨房部分の電気空調と、それ以外のガス空調（ガスヒーポン）の二つのシステムを使っています。今回の設備老朽化による更新工事は、このガス空調を停電時にも自立発電で運転するシステムを国の補助金を得て導入することが出来ました。令和3年1月下旬、関西電力の停電工事がありましたが、自立運転の試運転を行い約2時間、暖かい空気に包まれ過ごすことが出来ました。これで災害時の冷暖房対策は完璧になりました。

工事は令和2年10月26日に地下1階の厨房から始まり、11月は東側1階・2階・3階、12月に入り西側2階・3階・1階へと進み、最後にLPガス地中バルク（タンク）交換が終わり、令和2年12月26日に完了しました。

念願の空調設備更新工事がすべて完了し、2か月ぶりに全館が春のような温かさに包まれました。工事期間中、入居者の皆様が大きな体調変化もなく、また、新型コロナウイルス感染症発症による工事中止も

日常の中で楽しみを持っていただくために

介護支援専門員 西島 志奈子

令和2年度 梅寿荘第一回行事委員会を開いた際、委員の頭には何をすればいいのだろうという思いがありました。「3密を避けながら交流の場を持つ」この相反するルールの中で何ができる？と

そんな中、ご利用者に楽しんでいただくため、例年通り毎月何らかの行事をして行こうということになりました。外出ができないため施設屋上で行ったお花見（桜ではなくツツジですが）や野外喫茶、密を避け各ユニットでカラオケやビデオ鑑賞、スイカ割（もちろんスイカはいただきました）をした月もあります。皆さんが毎年楽しみにしておられる食事会も各フロアで間隔をあけおこないました。規模は小さくなりましたが、ふと聞こえてくる「きれいやな」「ケーキおいしい」という会話を聞き、喜んでいただいていると感じることができました。

施設生活の日常に楽しみと、変化や刺激を持って

なく、無事完了したことに胸をなでおろしました。

コロナ禍の更新工事を後押ししてくださった法人本部、寒い中を簡易な暖房器具でご辛抱いただいた入居者の皆様、ご利用者を寒さとコロナウイルス感染症から守るため様々な対策を講じてくれた職員の方々、そして、我が儘とも言えるような度々の工程変更のお願いを気持ちよく聞き入れてくれた㈱ダイセンはじめ施工業者の皆様に、心からお礼申し上げます。



いただくことがこの取り組みの目的ならば微力ながらお手伝いができたと思います。今後も皆様に笑顔になっていただくためいろいろな活動を企画し開催していきたいと考えています。



「ケーキがおいしい！」
梅寿荘屋上で奈良盆地を眺めながらの“野外喫茶”



あくなみ苑

ご利用者に笑顔を

事務員 平田 真一郎

新型コロナウイルス感染症の第3波が到来し今まで以上にご利用者や職員に新型コロナに対する不安が募る年末年始ではありましたが、12月には「クリスマス会」と「餅つき」、1月には「年賀式」と「とんど」の行事を行いました。クリスマス会ではコロナ禍の為、ご利用者と職員のみでジェスチャーゲームやマジックでのイリュージョン（私が失敗してしまいました…）やご利用者と職

員で合唱を行いました。年末の餅つき。毎年、近隣の保育園より園児が来苑し、お遊戯の披露や餅つきを行いご利用者と触れ合っていました。今回は出来ず。「よいしょ、よいしょ」の掛け声で職員が餅をつき目や耳でも楽しんで頂き、今年はお鏡も作りました。元旦の年賀式。施設長よりご利用者へ新年のご挨拶を行い獅子舞を披露し、正月料理とお屠蘇を振舞いました。15日のとんどでは青竹と藁を使い背丈以上の立派な櫓が出来ました。火をつけると短時間で燃え尽きてしまいましたがコロナ終息と今年も一年災いなく健康で過ごせるよう願いました。

コロナ禍で例年のように行えない事もありましたが、行事を行う事により久々にたくさんの笑い声や笑顔が見られたと思えました。



クリスマス会②



クリスマス会①



とんど



獅子舞



年賀式



餅つき



梅寿荘デイセンター

笑顔のために…

介護職員 加納 久

梅寿荘デイセンターでは、筋力向上を目的として数種類の運動器具を、ご利用者の皆さんにおすすめさせて頂いています。

開始当初は、どなたも運動器具に興味を持って頂けず、職員がご利用者に「運動してみませんか？」と声をかけて「何すんの？」とヨイショと重い腰を上げて、運動器具を使って頂くという状態でした。

しかし、現在ではこちらから声をかけずとも、多くの方が運動器具の場所に向かい、「ヨイショ、ヨイショ！」と体を動かしていらっしゃいます。すると運動している方が、「あんたも、どうや？」と他の方を誘われたり、運動されている方に触発されてか、「私も！」と運動される方々が増えています。そんな方々に「おっ！精が出ますね！」や「無理なく、ゆっくりと動かしてみましょ！」という声かけをすると、皆さんニコッと笑顔を返して頂く事が多くなり、嬉しい気持ちになります。

日常のふとした皆さんの笑顔が職員の励みとなり、癒しになると私は感じております。

これからも、より多くの笑顔が生まれるようなサービス提供に努め、コロナ禍でも提供可能なメニューも考えていきたいと思えます。

愛染寮

こんな時期こんなご時世ですが…「海里」

施設長 末松 保喜

夏に見送られた恒例の海への里帰り事業をどうするか、悩みに悩み決断してからもさらに迷っていましたが、行ってきました。ネスタリゾート神戸です。踏み切ったのは往復バスも食事会場も完全貸し切りであること、屋外でこの手のテーマパークはどこも対策がしっかりなされていること、そしてこの先もっと行けなくなるであろうこと、何より子どもたちに笑顔を出すこと。結果としてはいつも

児童施設より

より少し贅沢をしたと思いますが、ホテルでのディナーは子どもたちだけでなく大人のテンションを上げるにも十分過ぎるほどでした。

ひとえに温かく見守ってくださっている方々のご厚情の賜物です。厳しい状況下ではありましたが、今年度の「里帰り事業」なんとか無事実施することができましたこと、感謝と共にご報告申し上げます。

正月外出支出報告（令和3年1月4日）

収 入	ひめゆり基金からの助成金	500,000 円
	愛染寮自己負担分	130,260 円
	合計	630,260 円
支 出	正月外出費合計 (食事代・バス代・入園料等)	630,260 円

* 今回ひめゆり基金に3,124,900円の温かいご支援を賜りました。(R2.7.1～12.31)

- ◆ 日 時 令和3年1月4日（月）
8：00～20：00
- ◆ 行き先 ネスタリゾート神戸
千里阪急ホテル
- ◆ 参加者
児童 …………… 22名
職員 …………… 7名
計 29名

奈良県発達障害者支援センター でいあー

安心して「伝える」「知る」「学ぶ」

相談員 中村 匡志

今年度をふり返ってみますと、新型コロナウイルスに翻弄された年でした。でいあーには、普及啓発・研修：発達障害の理解と支援に関する啓発及び支援者等の人材育成を担うと言った業務があります。毎年4月の世界自閉症啓発デーに関連した行事も、今年度は先の理由で全て中止になり、研修も同様に中止になりました。

一方、感染者数の減少が見られたことから、10月より支援者対象のアセスメントの入門研修を3回シリーズで実施しました。集合研修にあたり、感染防止対策として、参加定員の縮小(会場定員の半分から3分の1)・席間隔の確保、受付での検温・消毒、パーティションの設置などを施しての開催になりました。安心して研修を受けていただける工夫を取り入れたこと、他所での研修が少ない年

であったことから、10月の研修では66名、11月の研修では58名の参加者がありました。

その後、市町村で発達障害児者への一次相談窓口の充実に向けた取り組みとして、窓口担当者：市町村行政及び相談支援従事者への研修を、YouTubeによる配信形式でおこないました。発達障害支援に関する基礎的な内容から当事者との対談含めた5つのコンテンツを、希望者に11月下旬から年末にかけて配信しました。ユーザーと言われる方の要素である20分以内の内容にするなど工夫をしました。通常の研修と異なり、研修感覚が薄いと言った声があった一方で、昼休憩など職務の合間に必要に応じ分けて学べる声もいただきました。約100～300のアクセスがありました。事前収録の苦労は多々あったものの、新たな研修の形に今後も継続検討の余地あり！とも思えました。

昨今の環境や状況の変化は今までに経験したことのないものです。だからこそ、私たちのセンターの根幹である支援は、今までと同じで良いのではなく、周りの変化に応じて私たちからも変化することを改めて気づかされた一年でした。これからも変化のアンテナを張っていく事は大切だと感じています。

いこまこども園

ホームページのリニューアル ～園から保護者へデジタルでの発信を～

副園長 山中 治郎

いこまこども園では、今年度ホームページのリニューアルをしました。愛護会新聞の作成等以前からつながりのあった専門業者に依頼し、全く新しいホームページに作り変えました。内容は、園の特徴、園長の話、園児の1日の様子、施設紹介、年間行事、問い合わせ、保育教諭募集などです。鮮明な画像を使い、園でいきいきと活動する子どもたちの様子や園の特徴がよくわかります。さらに、会員サイト限定でブログやyoutubeのいこまこども園チャンネルのお遊戯動画が見られるようになっています。先日も園で行った愛護会主催のミニS Lイベントの動画をブログで発信しました。
(<https://www.ikomakodomoen-hozanji.com/>)

また、コロナ禍で園の行事を中止にしたり、保護者の参観をやめてもらったりしていますが、保護者の方々から子ども達のがんばる姿を見たいという要望もたくさんいただきます。何とか要望に応えたいと、ビデオ会社に依頼して園児の活動を

撮影・編集し、「生活ムービー集」として各クラスDVDにしたり、園行事「春をよぶつどい（発表会）」をDVDにしたりして保護者に楽しんでもらっています。

コロナ禍で、思うような園の運営ができませんが、デジタルでの発信を心がけ、保護者とのつながりを深めていきたいと取り組んでいます。



いこま乳児院

あーちゃんと2人だけで過ごす日

主任看護師 関口 直見

いこま乳児院では、こども1人に職員1人が担当として付く、個別担当制をとっています。担当職員は、母のような、時には友達のような存在で、愛着形成には大切な役割を担っています。

今年度は、コロナ禍で園外保育（遠足や宿泊旅行等）に行けない代わりに、月に1回、担当と1対1で過ごす日を作りました。普段は行かない生駒駅近くまでお散歩に行き電車を見たり、森の中を探索したり、乳児保育園前の自動販売機で好きなジュースを買う等の体験をしました。お昼ご

飯はこどもたちが、それぞれ好きな場所を選んでお弁当を食べています。いつの間にか、1対1の日は、『お弁当の日』と楽しみに待つようになっています。

集団保育中には見られないこどもたちの表情を引き出し、1対1で甘えを出せる1日をこれからも大切にしていきたいと思ひます。



いごま乳児保育園

楽しかったお芋ほり

園長 家治 圭子

子どもたちが楽しみにしている行事の1つ芋ほり体験。

地域の方々のご厚意により始まり15年程続いています。2歳児の子どもたちなので、土を触るのを嫌がる子もありますが、土まみれになりスコップや手で掘ったり茎を引っ張ったり、「♪うんとこしょどっこいしょ♪」と歌いながら悪戦苦闘で採れたお芋を保育士に見せてくれます。お芋が出てくると「先生採れたよ。おっきいよ。つながっている。いっぱい。小さかった。」など声も一段と大きくなります。またその姿を見て嫌がっていたお友達もやってみようという気になってくれます。また、帰りのバスの中でもお芋の話でおしゃべりが堪えません。

が堪えません。

楽しかったお芋ほりは地域の方々の高齢化により継続が厳しくなりました。今までのご厚意に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



「力を合わせて採れたよ」

平城児童センター

みんなで手作りオリジナルかるた！

センター長 徂徠 おさむ

センターでは様々な手作り体験活動を行っていますが、一月十七日にオリジナルかるた作りのプログラムを行いました。

最初に一人ひとりにA4版ぐらいの用紙にそれぞれが担当する文字の絵を書いてもらいました。なかなか書けないかと考え見本を用意しましたが、ほとんど必要なく、一人で何枚も書いてくれる子どもがいました。その後に絵にあった読み札を考えてもらいました。

「そうめんがし、ことしはしたいな」「ねずこ、むんむんってかわいいな！」「しのぶさん、かわいいね！」など今を反映したものもありました。

短い時間でしたが素敵なオリジナルかるたを作れました。改めて子どもたちの豊かな発想力に感心させられました。翌週にはカルタ大会を行い、楽しく遊ぶことができました。今後とも工夫しながら様々な体験活動を行っていきたいと思います。



皆で作った！ 世界にたった一つのオリジナルかるた

あすかの保育園

いつもと違うけど楽しかった今年のお泊り保育

保育士 平林 美穂

新型コロナウイルスの影響で今年のお泊り保育をどうしようかと、職員みんなであれこれ考え、11月に初めて園でお泊り保育をすることになりました。近所の公園をまわるオリエンテーリングでは、ワクワクしながら公園内に隠された星を探し、夕方は園庭で特設足湯&マシュマロ焼き。足湯に浸かりながら夕焼け空を見上げると「あ！星や！」と一番星を発見。ほんわかあったかなお湯と火のぬくもりを身にしみて感じることができました。夕食は自分たちで作ったカレーライスをみんなおいそうにほおばり、夜はホールでキャンドルファイヤー。いつもと違った幻想的な雰囲気の中、自分たちで考えたスタuntsを楽しみ、あすかの保育園伝統の王龍寺の天狗さんの登場に息を飲んでいた子どもたち。今年はいつもとはちょっと

違った形でしたが、先生や友だちと力を合わせてお泊り保育を終えた後の子どもたちは、やはりひとまわりもふたまわりもたくましく成長し、自信に満ちた表情で輝いていました。コロナ禍でいろいろと難しいことも多いですが、子どもにとって貴重な経験ができるように、今できる形を柔軟に考えていきたいと改めて思いました。



「やけたかな」

こども支援センターあすなろ

山歩きのすすめ

児童発達支援管理責任者 安西 貴志

通称「お山のあすなろ」のこども達が毎日のように歩いている散歩コースは、そのほとんどが未舗装の山道です。実際には「おさんぽ」と言うよりは、もはや「トレッキング」と言った方が良くかなりの結構ハードなコースになります。落ち葉や木の根っこ、苔や岩、ぬかるみ等々、オフロードの連続です。

安全のためには、もちろん保育者と手をつないで歩くことも大切ですが、時には敢えて手をはなして歩くこともあります。頭をぶつけないように倒木のトンネルをくぐったり、木の根を掴んで斜面をよじ登ったり、落ち葉で滑って転ばないように重心を低く保って坂を下ったり…五感をフル稼働しながら自分で自分の体の動きを適切にコントロールする。こども達の大好きな山歩きは、室内

や園庭では到底経験できないことを沢山学べる場となっているのです。



児童発達支援 いっぽ

クリスマス会の一コマ

児童発達支援管理責任者 長野 智子

「ドン!ドン!ドン!」ドアを大きく叩く音。部屋の隅で待っている子供達の顔は…?何が来るの!?とワクワクの顔。え!?!という緊張の顔。怖いよ〜と泣きながら見ている顔。今年のクリスマス会はコロナ対策で保育士と子供達だけのクリスマス会。保護者はいないけど、やっぱり楽しくなくっちゃ!と、テーマは「ドアを開けると登場するのは誰?」。やってくるのは、だるまさん、黒子さん、狸さん、まさ

かの鬼も!子供達のクルクル変わる、豊かな表情がとても可愛い。でもやっぱり最後にやってきたサンタさんの登場には、1番の笑顔。

来年度は、この笑顔がもっともっと見られるような楽しい日常に戻れることを願わずにはられません。



「書初めて、精神統一!」

極楽坊保育園

「はるをよぶつどい」練習中

園長 辻村 泰聡

保育園の表現活動の集大成である生活発表会の「はるをよぶつどい」、昨年はこの行事まで通常通り開催することができました。そう思えば、新型コロナ対策をしながらの行事運営も、これで一回りすることになります。元々乳児〜赤組と、黄・青組とで2週に分けて開催していましたが、それでもホールは観覧の保護者でいっぱいです。今回は、学年一斉の発表はなくして全てクラスごとにし、観覧もクラスごとに入れ替えて見ていただくことにしました。また、0,1歳児のしろ・もも組は、日頃の保育の

中で撮影したものを動画として配信します。例年通りにいきませんが、実は悪いことばかりではなく、ホールの保護者の方にもゆったりと観ていただけたり、小さな赤ちゃん達にとっては緊張することなく日頃の様子を観てもらえたりという良い部分もあります。何にせよ子どもたちは、2月13日・20日の本番に向けて、劇遊びに合奏・歌と、普段と変わらず元気に練習に励んでいます。早く暖かい春がやってきて欲しいと思います。



「もりのおんがくか」いろんな楽器を鳴らしてみよう

仔鹿園

笑う門に…

主任 稲田 桂子

門松に松と竹が選ばれている理由は「松は千歳を契り、竹は万台を契る」と言われ、依代(よりしろ=神の宿る場所)が永遠に続く事を願っての組み合わせです。松も竹も気品の高い印象を受け、根強い繁殖力、やせ地にも耐えて生き続ける為、「永遠」や「純心」などの象徴になっているようです。また、竹の節をからめて斜めに切ると切り口が「笑口」に似ている事が

ら「笑う門に福来る」と言われています。仔鹿園の新年は心配なことがありましたが、子ども達の初登園日は、それらをすっかり清めるかのように雪が降り積もり、真っ白なスタートとなりました。門松の竹もニコリ笑って子どもたちを迎えます。



自慢の手作り門松



真っ白なスタート

第24回 法人研究発表会

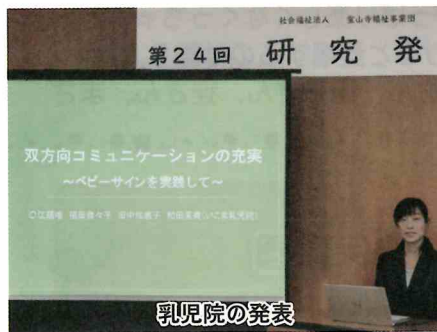
奈良県発達障害者支援センターでいあい

森山 貴司

今年度の法人研究発表会は異例の開催となりました。当初は例年通り会場での発表会を計画していましたが、コロナウイルス感染防止の観点からWEBでの開催に踏み切りました。そのため本発表や講師の先生の講評、各施設のポスター発表の録画撮りなど、例年とは違う大会準備が必要でした。



今年度の大会テーマを「共に生きる力を育み充実させていくために」として三つの児童施設の発表が行われました。いこま乳児院からは、ベビーサインを育児に取り入れた成果が発表されました。職員がベビーサインから子どもの意思をくみ取ることでも安心して生活できること、またベビーサインは子どもにも職員にも有効であり、双方のコミュニケーションが充実したことを報告されました。



た。いま乳児保育園からは、自然とのふれあいが育てる子どもの四つの力に着目した発表がありました。「自己肯定感」「人と上手にかかわる力」「自分で考えて行動する力」「体力・運動能力」を視点としてKJ法で評価し、子どもが生きるために必要な力を観察したことを報告されました。でいあいからは、触法障害者が社会に復帰していく取り組みについて発表がありました。地域との連携も併せて当事者の方を支援していく仕組みを作り上げて、地域で当たり前に暮らし、つながりを持ちながら日常生活を過ごす大切さを報告されました。それぞれの発表に対して才村先生からは質疑応答や講評の中で、今後の課題について様々な示唆をいただきました。ポスター発表では、15施設から発表が寄せられました。いつもなら舞台上で1分

間の説明を行ってポスター前で十分に説明ができるのですが、それができない今回はどの施設も4、5分と丁寧な説明をされていました。今回のWEB開催で良かった点としては、当日会場に来ることができない



質疑応答より



でいあいの発表

今回のWEB開催で良かった点としては、当日会場に来ることができない



才村先生を囲んで

職員も視聴が可能になり参加できたことやウイルス感染の不安への対策がとれたことがあります。一方予定されていた第二部のあひる隊の講演が中止になったこと、ポスター発表で職員間の直接の交流ができなかったこと、会場から伝わる発表の臨場感がなかったことなど仕方のないことながら残念な面もありました。

いろいろな制限の中で実施された今回の研究発表会でしたが、共に生きる力をこの機会に各施設でも見直すことができたのではないのでしょうか。毎年の研究発表会は法人にとって大きな一歩に繋がっていくと確信しています。

今回の開催にあたり、ご支援ご協力いただきました皆様方に厚くお礼を申し上げます。

来年度は高齢者部門の発表の予定です。

ステップアップ研修

法人研修委員 梅寿荘デイセンター

中井 耕大

令和2年12月3日、各事業所においてこれらが期待される職員18名を対象として、「アセスメントの基本姿勢と記録の取り方」について、奈良県発達障害者支援センターでいあーの森山貴司センター長から講義をしていただきました。

対人援助職である私たちにとって、大変重要な「アセスメント」がテーマということもあり、今年度新採用職員研修で実施したオンラインでの研修ではなく対面での研修とさせて頂いていただきました。会場の玄関入り口での検温や体調の確認、マスクの着用、手指の消毒、間隔を空けて着座、会場内の換気の徹底と、コロナウイルス感染症への感染予防対策を実施しての開講です。

前半は、発達障害を中心とした障害についての知識や基礎的な理解について学びました。専門分野外の職員も受講していましたが、著名人や馴染みのあるアニメも講義に登場し、興味深く障害について、分類や特性などの理解を深めることが出来ました。

この障害についての理解をもとに、後半の演習では事例検討が行われました。本来はグループワークにより、一つでも多くの意見や情報をグループで共有し学びを深める事が望ましいとこ

ろですが、コロナ禍での演習とあって個人ワークにて、事例を実際にアセスメントすることとなりました。
アセスメントとは、対象者についての多面的多角的にみて情報を収集し、客観的且つ専門的に理解・解釈を通して、生じている生活課題の把握をすると共にその原因を探り、支援課題を考えていく過程であることを学びました。そして、アセスメントした情報を



項目ごとにアセスメントシートへ記録し対応策や方針を考察しました。

今回の研修では、コロナ禍での実施にあたり、演習でグループワークを取り入れるならどのように実施出来るかという課題がありました。その反面、受講した職員は対面講義形式の持つ緊張感を感じる事ができ、ソーシャルディスタンスではあるものの実際に顔の見える形で、福祉職にとって重要なスキルであるアセスメントをしっかりと学び、スキルアップ出来たのではないのでしょうか。

法人調理実習研修

について

あくなみ苑 管理栄養士

山下真有美

2020年は、新型コロナ肺炎の大流行によって私たちの生活は一変しました。その影響はとても大きく、まさかこんな長期に及ぶものになるとは考えられませんでした。研修も例外ではなく、中止または形を変えて開催する事となりました。今回は調理実習に焦点をあてて書き進めていきたいと思えます。調理実習研修は毎年11月に開催しています。年間計画をたてる前年の2月には行うことができなくなるなんて想像もしていませんでした。例年、テーマを決めて食材を用意し、そ

の食材を使って参加者が調理しながらレシピを考案していきます。グループのチームワークや積極性が重要です。この研修は、普段なかなか会うことのない他施設の栄養士や調理師と顔を合わせ、意見を言い合うことができ、楽しい研修となっています。しかし、今回は大勢が集まる、マスクを外して試食するという一番感染リスクの高い内容で開催することは断念するかありませんでした。そこでレシピ作成は各施設で行い、資料を配布するという事にしました。テーマは「施設でおススメの魚料理」「鉄分が豊富にとれる副菜」です。各施設で栄養士と調理師で意見を出し合い考案したレシピは全部で24品分集まりました。いつもとは違う調理実習研修にはなりましたが、いい資料としてまとまったと思います。しかし、やはり顔を見ての研修で得るものにはかきません。なかなか収束しない中、来年度の研修には頭を抱えます。今年度の経験を生かして、みんなの顔が見える研修ができればいいなと思います。動画撮影、リモートによる研修、なども一つ、時期を考えた調理実習研修を最後にもってくるのも一つ、栄養士、調理師の参加人数を減らして複数開催するのも一つ。いろんな意見を出し、今後の研修開催を考えていきたいです。また、こんな今だからこそ、他施設の感染対策、食事提供方法、調理師教育など栄養士同士の繋がりを大切に情報交換を図っていきたいと思います。

瑞宝単光章 受章



叙勲を頂いて

極楽坊保育園

副主任保育士 前田 紀美子

昨年の初秋、真顔の園長先生から「ちょっと。」と薄暗い多目的室に呼ばれました。「何事？何かした？まさかの異動？」とマイナス思考満開に緊張の着席。すると微笑み穏やかに「この度、『瑞宝単光章』の通達がありまして…」とどこかで聞いたことのある言葉が霧のようにうっすらと耳に入ってきました。「えっ？私が？」「何かの間違いではないですか。」「なぜ？」体は震え、支離滅裂な言葉を発すれば発するほど頭が真っ白になり、嬉しさより私なぜ選ばれたのか不思議な感覚になりました。

このお話をいただく数か月前に先輩の叙勲祝賀会に参列させて頂き、経歴ビデオを観て保育園の歴史を作ってこられた偉大さに感動し、思い出も蘇って涙ぐんだところでした。それがあの金屏風の舞台に私が立つなど恐れ多くて膝が震えました。帰宅して主人に「えらいことになった。」と相談したところ「親孝行できるやん。」と笑顔で言ってくれました。両親に数日後話をすると泣いて喜んでくれ、そこで初めて受賞の有難みを少し感じる事ができました。

私は、子どもの頃から保育士になることを夢見ていました。ご縁あって宝山寺福祉事業団の一員に迎えていただき、極楽坊保育園で永年にわたり子どもたちと朗らかに過ごすことができたのは、歴代の園長先生が私を支え見守って下さったからこそです。憧れの保育士になったものの、右も左もわからない私に子どもを大切にする保育士の基本の心構えを教えていただいた中山先生。人を褒め、認める尊さや

認めてもらう嬉しさを教えていただいた西野先生。いつも気かけ、くじけそうな時に手を差し伸べ、どんな時でも笑顔でピンチをチャンスにすることができる身をもって示していただいた松村先生。新しいことに果敢に挑戦しようとする若き志を見せてくださっている辻村先生。他にも勿論、先輩方には困った時にお力添いをいただき、同僚とは志を同じくして楽しいだけではない現実の日々を切り抜け、後輩たちからは元気をもらいました。今日まで勤めることができたのも理事長先生をはじめ多くの方々が私を支えて下さったからこそです。感謝しかありません。

今年度は、コロナ一色で社会全体が閉塞感に満ち、受章も有難く受け取りにくくざわついた気持ちをどう収めればいいのか落ち着きませんでした。しかし、こうして文字にしていくうちに「これからも、子どもの生きる力を育て、子育てに奮闘する保護者に寄り添い頑張りなさいよ。」と激励してもらったのだと思い、この先も保育の道を邁進していきたいと心落ち着きました。

来年度、私が歩んできた『極楽坊保育園』は新しい時代の波に乗り『極楽坊あすかこども園』になります。新しいことには困難がつきものです。しかし、『艱難汝を玉にす』を心に留め、キラキラ輝く子どもたちと共に新しい歴史の1ページを刻んでいきたいと思えます。今後とも、まだまだ未熟な私ではありますが、どうぞよろしくお願い致します。

全国社会福祉協議会

会長表彰受賞の喜び



極楽坊保育園

主任保育士 田中 明美

この度は、全国社会福祉協議会会長表彰をいただき喜びの気持ちで一杯になりました。この表彰は、私にとって身に余る名誉であるだけでなく、この30年を振り返る良い機会となりました。

ご縁あって極楽坊保育園にお世話になり、保育の仕事を通して数え切れないほど多くの人達に出会うことが出来ました。中山園長先生、西野園長先生、松村園長先生、辻村園長先生をはじめ先輩の先生、後輩の先生、事務の先生たくさんの方から多くのことを教わり、様々な経験をさせてもらいました。

私ははじめピアノが弾けないという理由で、保育士の学校を諦め国文科の学校に進路を進めました。しかし、その後自分の進むべき道に迷っていた時に、ある方の勧めにより通信で保育士資格をとり晴れて保育士となりました。そんな私ですから就職して間もないころは先輩の先生方にご迷惑ばかりかけていたと思います。振り返れば福祉に貢献するということより、人として、社会人として沢山のことを教えてもらうことばかりだったと思います。沢山の素晴らしい先生方にお会いし、いつも

温かく見守ってくださいました。

結婚をして、子どもを3人娘授かり、病気にもなつてしまいました。時には保育の仕事に悩みくじけそうになったこともありましたが、そんな時には園長先生はじめ周りの先生方に支えられ、あどけない子どもたちに励まされ、もちろん家族の理解と支えも大きかったです。本当に感謝の気持ちで一杯です。

30年前と比べると社会も大きく変化しましたが、保育の世界も大きく変化してまいりました。そしてその変化が極楽坊保育園にもやってきました。この4月から「極楽坊あすかこども園」大きく飛躍します。正直戸惑いはありますが、辻村園長先生、老田副園長先生をお支えし、周りの先生方とともに自分の果たすべき役割は何であるか考えしっかりと頑張っていきたいと思えます。

永年勤続表彰

私は仕事が好きです。

だから45年間勤めました



児童発達支援センター 仔鹿園

園長 岡本とも子

法人に長年に渡りお世話になり、「感謝」の一言では足りない45年間です。

高校生のボランティアから始まった法人と出会いがなければ今の私はいません。

平成25年に名誉ある瑞宝双光章を頂き、仕事を続けてきたことに我が身を褒めました。

その時にある方から頂いた色紙があるので、そこには「慈悲喜捨」と書かれてあります。それは章に値するあなたの常の心だと。「そうなのかなあ」と考えながらも仔鹿園で出会う人たちの事を想い悩み喜んでいる自分がそこにいます。

今日も元気で過ごせることに感謝しながら仕事に励みたいと思います。

毎日、通いなれた道。この角を曲がり、あの坂道を上り……。

これまでに沢山のご縁を頂いた事や職命を重ねる事ができることに感謝を致します。

令和2年度 法人永年勤続表彰

菅尾明史

愛染寮・副主任児童指導員・20年

関口直見

いこま乳児院・主任看護師・20年

山中真智子

極楽坊保育園・保育士・20年

中野公美子

いこま乳児保育園・栄養士・20年

山本節子

梅寿荘・経理主任・20年

田中将史

あくなみ苑・施設長・20年

岩田一哉

あくなみ苑・介護職員・20年

中村達史

あくなみ苑・介護職員・20年

斉藤洋子

梅寿荘居宅介護支援センター・センター長・20年

稲田桂子

仔鹿園・児童発達支援管理責任者・25年

城山裕恵

いこま乳児保育園・保育士・25年

喜多由希子

いこま乳児保育園・主任保育士・25年

田中明美

極楽坊保育園・主任保育士・30年

辻村万里子

いこま乳児院・院長・30年

前田紀美子

極楽坊保育園・副主任保育士・35年

上嶋智子

いこまこども園・保育教諭・35年

老田紀子

極楽坊保育園・副園長・40年

岡本とも子

仔鹿園・園長・45年

全国レベル表彰受賞

○瑞宝単光章（四月二十九日付）

中尾智子

（愛染寮・主任保育士）

○瑞宝単光章（四月二十九日付）

松久由美子

（極楽坊保育園・主任保育士）

○瑞宝単光章（十一月三日付）

前田紀美子

（極楽坊保育園・副主任保育士）

○全国社会福祉協議会会長表彰

田中明美

（極楽坊保育園・主任保育士）

○全国老人福祉施設協議会会長表彰

中江智美

（梅寿荘・主任生活相談員）

○全国老人福祉施設協議会会長表彰

堀川晃弘

（あくなみ苑・介護支援専門員）

○全国老人福祉施設協議会感謝状

西野公章

（特養延寿・介護職員）

○全国老人福祉施設協議会感謝状

奥野美香

（はあとぽーと延寿・介護職員）

○全国老人福祉施設協議会感謝状

中田エミ子

（居宅介護支援センター延寿・主任支援専門員）

○全国老人福祉施設協議会感謝状

中島淳

（デイセンター寿楽・主任生活相談員）

○全国老人福祉施設協議会感謝状

松本直大

（あくなみ苑・介護職員）

○全国老人福祉施設協議会感謝状

山下真有美

（あくなみ苑・管理栄養士）

○全国老人福祉施設協議会感謝状

中島真子

（あくなみ苑・介護職員）

○全国老人福祉施設協議会感謝状

清島理知

（あくなみ苑・経理主任）

○日本保育協会会長表彰

山中真智子

（極楽坊保育園・保育士）

○日本保育協会会長表彰

矢島智穂

（極楽坊保育園・保育士）

令和2年度役員会報告

（令和2年10月～令和3年1月）

第3回 理事会 令和2年12月11日

桃李館研修室

第1号議案

令和2年度上半期事業報告並びに第一次補正予算案について承認を求める件

第2号議案

極楽坊保育園の幼保連携型認定こども園移行に関して、園長、副園長が相当資格を有することの認定について承認を求める件

第3号議案

給与規定の改正について承認を求める件

第4号議案

理事長及び業務執行理事の職務執行状況について報告

あ と が き

昨年は新型コロナウイルス感染症抜きには語ることはできない年でした。その後、年が明けても2回目の緊急事態宣言が発出され、まだまだ緊張が避けられない状況が続いています。今回のひめゆり通信では、通常の保育や介護の中で感染対策を組み込み、日常の大きな変化に工夫を加え柔軟に対応しつつ、持続可能な仕組みや体制づくりを実施した内容を掲載させていただきました。

今年は、いよいよ延期になったオリンピックも控えています。早くコロナが終息し、自由にいるようなことを楽しめる日々が戻りますよう祈りたいと思います。（井上）